## 女の子の護身術教室

作=としちゃん

している。 由香里は新体操部員だが、 エアロビジムで小学校低学年の女の子対象の護身術のアルバイトを

「女の子がんばれ、

の子は充分強いが・・・) いじめっ子をやっつけろ!」がキャッチコピーの最近人気のコースだ。 **分** 

りをいれたものをつるして、蹴る練習をしている。 今日も、新入りの生徒に、 足の甲でポーンと軽く金玉を蹴り上げる方法を教えていた。 袋に重

すます好奇心がわいてくる。男のシンボルでしかも急所だなんて。 たない金玉というものは少女たちにとっては興味深々なのだ。しかも、 女の子たちは、男の子の金玉が急所であると教えられ目を輝かせて練習している。 そこが急所というからま 自分達の持

がらも半信半疑であった。 テレビなんかで、男が股間蹴られて悶絶する姿は何度か見たことがあるが、おもしろく思いな

った。ジムのスイミング指導のアルバイトをしている男性に、1回だけお願いしてあるのだ。 いかに、 この教室のうりものは、 小学低学年の女の子といってもまともにタマを蹴られると、ダメージが大きく、 1回の授業で、 1度だけ本当の男性に金玉を蹴らせてもらえることだ 1 回

由香里には、そのことは、よく理解できた。

の部分が水にぬれてキラキラと光っている。 ル の方からやって来た男性はピチピチのブルーの競パンで泳いだばかりなので、 モッコリ

膨らみの下方にタマの形もくっきりしている。

「ごくろう様です」

由香里は、にこやかに男性を迎えた。

線にはなれているようだ。 つい、その股間に目が行ってしまうが、 男性はいつも競パン姿なので、そういう女性たちの視

わめいている。 股間のふくらんだ、たくましいお兄さんを迎えて女の子たちは、 キラキラと目を輝かせて、

「じゃ、綾名ちゃん、蹴ってみて」

パンのお兄さんの悶絶する姿を見るために綾名を選んでみた。 クラシックバレエの蹴りは、スナップが効いて男にとっては、 由香里は、ちょっといじわるく、 クラシックバレエを習っている綾名を指名した。 かなりの苦痛だ。 由香里は、 競

その膨らみを見つめた。まさか、 むなんて、思ってもいなかった。 男性は水色の競パンなので、股間の膨らみはかなり目立っている。綾名も、ドキドキしながら、 自分の蹴りで、この逞しいお兄ちゃんが動けなくなるほど苦し

いた。 もちろん、 蹴られる男性も、 たかが小学低学年の女の子の蹴り程度、 大丈夫とたかをくくって

「えいっ!」

をきかせてみた。女の子特有の、ちょっと意地悪な小技だった。 の股間にたたき込んだ。さすがに女の子だけのことはありヒットの瞬間にクッと足首のスナップ 綾名は、かわいらしい掛け声とともにバレエで鍛えた、 自慢の蹴りを、 スイミングのお兄さん

- 4 -

「うっ!」

さえて苦しみだした。 スイミングのお兄さんは、 うめきながら、 顔をゆがめて、 まえのめりになった。 手で股間をお

ったのだ。 綾名は少しびっくりしてしまった。というのはスナップこそ効かせたが、さほど力は入れてな

由香里は、 予想通りの結果に満足し、 苦しむ競パンのお兄さんを見つめていた。

みんな、 と口では言いながら、男性の苦しむ様子を楽しんでいた。しかも、幼い女の子が大勢みている。 びっくりしながらも、 その苦しむ様子をおかしそうに見ているのだ。

練習しておけば、女の子でも簡単に男の人をやっつけることができるのよ。ただし、ちゃんと玉 に命中させるこが大事なの。 「さあさあ、 みんな、よくわかったでしょう。男の人はタマがすごい急所なのよ。 タマは股の下にぶら下がってるから下から蹴り上げるの」 ちょっと蹴る

「ハーイ」

「私も、蹴ってみたい」

女の子たちは、口々に、蹴りたいと訴えた。

よ。それから、 「今日はもうだめよ。男の人は、しばらくたちなおれないのよ。だから、 家へ帰って、 お兄さんや弟を相手にためしてはだめよ。 男の子はとっても苦しむ 今からはキックの練習

いうことはわかっていた。 そうは言っても、 由香里には、 きっと何人かの男の子が苦しい思いをすることになるだろうと

ところが、男の子が苦しむ場面は意外に早くおとずれた。

た。このレースで、なんと女の子の方が圧勝してしまい、女の子達が調子にのって男の子をから かい、怒らせてしまったのだ。 護身コースの後、 綾名たちはスイミングの方に参加するのだが今日は男女対抗レースが行われ

女の子に惨敗して、悔しくてたまらないのだ。 男の子といっても、競パンの前の部分は、 っかりふくらんでいる。 キャッキャッ言っている

力ではらそうというわけだ。ところが・・ 怒りを爆発させた男の子たちは、女の子につかみかかっていった。 泳ぎで負けた悔しさを、 腕

数分後、男の子たちには悲惨な運命が待っていた。

男の子の攻撃を、かろやかにかわした女の子たちのしなやかなキックが、 男の子の大切な部分

を次々に蹴り上げていた。

護身コースの効果はすごいみたいだ。 ひしゃげるようになるのもよく見えた。 離れてみていた由香里があきれるくらい、 あれは効くなーと、 女の子たちの蹴りは的確だった。もっこりの部分が 他人毎ながらかわいそうになった。

女の子たちが、キャッキャッと楽しそうに引き上げた後男の子たちが股間を押さえ、 プールサイドに転がっていた。